



の が き 野垣あきこ

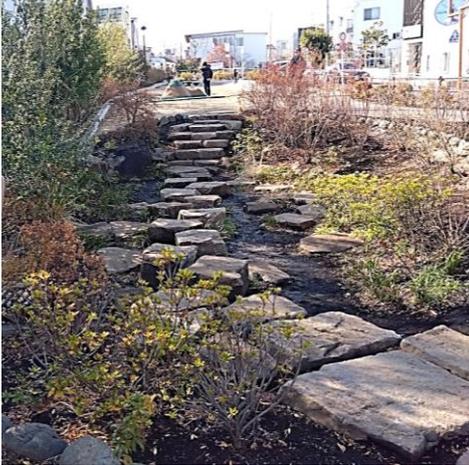
子ども・暮らし・平和



2025年1月22日 No.208 連絡先 090-9293-8710 ご相談もどうぞ!

西武新宿線は地下化に

小田急線地下化後の「下北線路街」などを見学してきました



シモキタ雨庭広場

1月15日、野垣あきこサポーターズSI（下井草・井草地域後援会）の主催で、連続立体交差化事業で地下化となった小田急線下北沢駅周辺の跡地活用のフィールドワークを行いました。
緑地、飲食店街、保育園など有効活用の事例を見学

小田急線の代々木上原〜梅ヶ丘駅間（約2・2km）は地下化され、2013年に東北沢、下北沢、世田谷代田の3駅が地下駅となりました。9箇所の踏切が廃止され、交通渋滞や騒音被害が解消されました。

今回は線路跡地を活用した全長1・7kmの「下北線路街」などを6名で見学してきました。

世田谷代田駅の周辺

最初は世田谷代田駅で下車。小田急線が地上に出てくる場所を見ました。すぐ北側には小学校があり、地下化によって騒音

が改善された大きな事例です。

阿佐ヶ谷住宅のようなデザインの賃貸住宅があり、子育て世代の自転車置いてありました。

他にも箱根からお湯を運んでくる温泉旅館や、102名定員の認可保育園、小規模な飲食店街など多彩な施設がありました。

下北沢駅〜東北沢駅の周辺

私が一番気に入ったのは、シモキタ雨庭広場（上写真）で、雨水を下水道に直接放流せず一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させるための植栽空間です。すり鉢状の低い所に地名の「沢」をイメージして作ったとのこと。

植物を守り育てる団体「シモキタ園芸部」の拠点や自然観察エリア、堆肥を作る所もありました。駅の地上部にはカフェやレンタルスペースなどの複合施設があり、吹き抜けの駅ビルはとても開放的な作りでした。

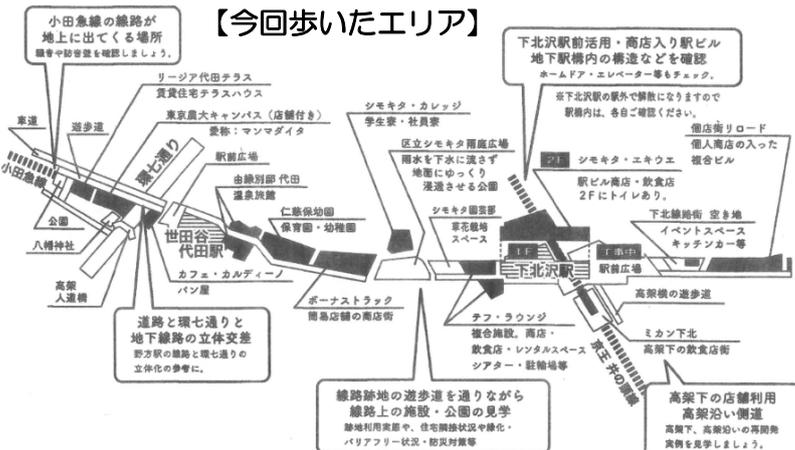
東北沢駅までは雑貨屋など個人商店の入った複合ビルやホテルなどが続いています。

跡地活用は住民とともに

下北線路街は、2022年に全施設が完成。住民や商店街等、下北沢に関わる人たちが開発者の小田急電鉄と継続的に議論を重ね、この地域にふさわしい街づくりが進められたそうです。

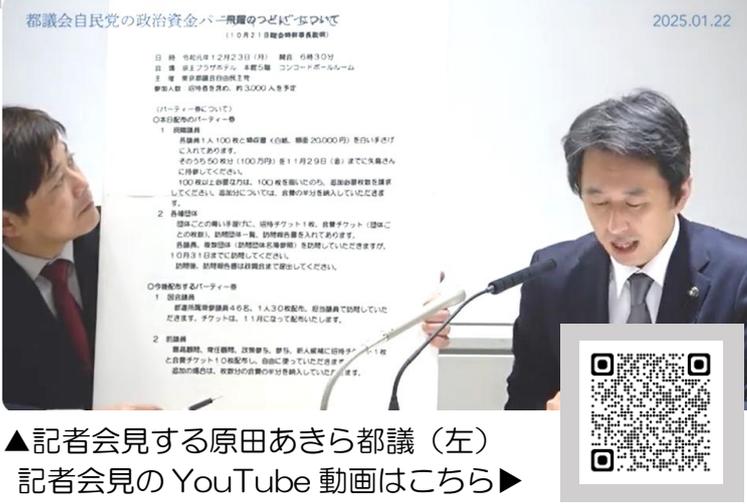
西武新宿線も地下化することで跡地活用の可能性が大きく広がると感じました。杉並区の下井草まちづくりラボでもぜひ考えていきたいと思えます。

【今回歩いたエリア】



企業団体献金の禁止を！

都議会自民党の政治資金パーティー収入 中抜きルール化か



▲記者会見する原田あきら都議（左）
記者会見のYouTube 動画はこちら▶

1月22日、日本共産党東京都議団は、都議会自民党の政治資金パーティー収入未記載の問題について、記者会見を行いました。
党都議団が「中抜き」の可能性示す内部文書を暴露

1月17日、東京地検特捜部は、都議会自民党の会計担当職員を裏金問題で略式起訴しました。しかし、個々の都議については金額が数百万円にとどまる事から、起訴を見送るという結論に、批判の声が広がっています。

記者会見では何も語らず

都議会自民党は同日深夜に記者会見を行い、政治団体としての

党都議団は昨年11月に都知事や都議会会派を調査するチームを作り、原田あきら都議もその中で先頭に立つてきました。会見では、一カ月前に入手したとされる都議会自民党の内部文書が示されました。そこには2019年12月に開催した政治資金パーティー券の収入の扱い方に関して書かれていました。各都議に1枚2万円のパーティー券を100枚配り、200万円を納めるはずが、50枚分の100万円を納めれば、あとは

党都議団が徹底的に調査

都議会自民党を解散すると表明しましたが、都議会会派としての都議会自民党は存続します。不記載があった都議の名前や人数、個別の不記載額も明らかにしていません。また、いつから裏金の運用が始まったのかは確認できなかった、と語りました。長年の慣習となっていたことから、自民党の組織的問題であることは明らかです。

懐に入れてもよいとする内容です。しかし、この方法では最終的に何枚売れたのか、いくらが都議の懐に入ったのかも分かりません。

野垣あきこ地域 新春のつどい
2月2日(水) 13時半～
井草地域区民センター

参加費500円(お茶とお菓子)
カンタンSNS講座や
みんなで歌おうなど

党都議団は、自民党国会議員のキックバックよりも悪質性が高いと指摘。実際にパーティー券を購入して出席しなかった人数は1000人を超える計算になることも分かりました。都議会自民党は、6月に行われる都議会議員選挙の前に、有権者に説明する責任があります。それではないでしょうか。

あきこの部屋

先週、「そうれっしやファミリールンサート」へ行ってきました。セシオン杉並での開催は5年ぶり。戦争中に動物園の動物たちが殺処分され、戦後に名古屋の動物園に生き残った2頭の像を東京の子どもたちが見に行くための列車が走る、という実話に基づいた合唱構成です。

第一部は「すぎなみ彩楽(しやらく)ウインドシンフォニー」の演奏。奏者は若い方が多く、指揮者のトークも楽しかったです。

第二部の合唱「そうれっしやがやってきた」は杉並、港、練馬など各地で活動するそうれっしや合宿団も参加。子どもたちもたくさん出演し、ずっと下を向いていた子が真剣に歌い出したりと素敵なステージでした。

ロビーではモデルとなった名古屋の東山動物園の当時の写真や、福島への寄せ書きも展示されていました。戦争も原爆もない平和な社会を子どもたちに私たちが大人の責任は重大です！